

金沢大学大学院法務研究科  
2008年度「法理学」小テスト解答  
6月6日2限実施/ 出題: 足立英彦

1. 次の語句をそれぞれ3行以内で説明しなさい。(各2点)

(a) 不自由

解答 名宛人に対して(名宛人から)、ある行為をすることを許されていない、又は、それをしないことを許されていないこと。

(b) 権限

解答 一般的法規範や個別的法規範を制定・変更・廃止することによって、他人の法的位置に変更を加える能力のこと。

2. 「Vを行うことを命じる」という規範が偽(無効)である場合、以下の規範は、「真」、「偽」、「真又は偽」のいずれであるか。(各2点)

(a) 「Vを行うことを禁じる。」

解答 真又は偽

(b) 「Vを行うことを許す。」

解答 真又は偽

(c) 「Vを行わないことを許す。」

解答 真

3. 「aはbに対してGを行わないことが許されている」という命題が真(有効)である場合、次の問に答えよ。(各2点)

(a) bはどのような法的位置にあるか。(上記と同様の命題の形式で答えよ。)

解答: 「bはaに対して、(aが)Gを行うことを求める権利を有さない。」

(b) 「aはbに対してGを行う義務を有する」という命題は「真」、「偽」、「真又は偽」のいずれであるか。

解答: 偽

(c) 「aはbに対してGを行わない義務を有さない」という命題は「真」、「偽」、「真又は偽」のいずれであるか。

解答: 真又は偽

4. 次の文章の空欄を埋めよ。(各1点)

(a) 「行政法では( 1 )の原則)が妥当し、行政活動は、それが行われるためには必ず「法律の根拠」(根拠規範)を必要とするが、( 2 )規範はその「法律の根拠」とはみなされない。」

解答 1 法律の留保 2 目的

(b) 授權規範は、求める権限行使のあり方によって( 3 規範)と( 4 規範)に分類できる。

解答 3 義務的授權 4 許可以的授權

(c) 定められた条件が満たされる場合に、定められた効果が必ず発生することを求める規範を( 5 )と呼び、また、定められた法的効果が、法的な可能性の範囲でできるだけ発生することを求める規範を( 6 )と呼ぶ。

解答 5 ルール 6 原理

5. 国家が国民に「自由」という法的位置を与えるためには、「明示の許可」と「黙示の許可」という二つの方法がある。(各4点)

(a) それぞれ、どのような方法であるのか説明せよ。(全体で3行以内)

解答 明示の許可とは、許可規範を設けることであり、黙示の許可とは、命令規範や禁止規範を設けないことを指す。

(b) 法体系の整備された現代の一般的な国家(例えば日本)においては、どちらの方法を用いることが適切であるか、理由を付して説明せよ。

解答 明示の許可の方法を用いることが適切である。なぜならば、現代の一般的な国家のように、階層構造を有する法体系が整備されている場合、上位の階層に属する法規範として許可規範を定めておけば、それと矛盾する下位の命令・禁止規範の効力を否定する効果があるからである。

参考情報(6月6日現在)

| 履修登録数 | 受験者数 | 平均点  |
|-------|------|------|
| 20    | 20   | 24.3 |

\* 30点3名、29点2名。